

ISAスタディーツアーで 本学学生スタッフが大活躍！

1月17日～1月19日、日本で初開催となった国際的な研修会「ISA (Institute of Student Affairs) スタディーツアー」が本学で開催され、学生たちが運営スタッフの一員として活躍した。



ISAスタディーツアーには、アジア・環太平洋地域で学生支援に携わる教職員が参加し、今回は「キャンパスのグローバル化と学生支援」をテーマに、講演、キャンパスツアー、事例発表、グループワークを行った。

学生支援センターの公募で集まった33人の学生は、すべて英語で行われた開会式、閉会式、講演会、ウェルカムパーティー、フェアウェルパーティーの司会やキャンパスツアーの案内役、通訳、会場設営、宿泊施設(雑誌館)内のサポートなど多様なプログラムの運営を担った。開催日までの準備期間が極めて短く、学生スタッフチームは京都市内にある英語対応が可能な飲食店の紹介マップの作成や、本学の今出川キャン

パスと京都大学でのキャンパスツアー、相国寺(特別拝観)の案内などのために、様々な資料を英文化し、英語で説明するために精力的に練習をした。また研修会への参加や、各チームで自主的に勉強会(英会話力アップなど)を開くなど熱心な活動を展開した。

ISAプログラム全般を通じて、本学学生の基本的なスキル(英語力を含めたコミュニケーション能力、総合的人間力など)が非常にすぐれていることを改めて実感した。特に京都大学のキャンパスツアーでは、事前準備ができない質疑応答でも即時に通訳し、そのレベルは海外からの参加者からも高い評価をいただけた。

海外からの参加者を大勢迎えた今回の研修プログラムが無事に成功した大きな要因のひとつに、熱意にあふれた優秀な学生スタッフの活躍があったといえる。

来年8月には、世界からさらに多くの参加者を迎えて「APSSA 2014 京都」が本学を会場として開催される予定である。APSSA国際カンファレンスでは、世界の大学の教職員に加えて、加盟大学等の学生たちが参加して学生自身が主役となる国際会議も同時開催される。



る。その際には、今回の学生スタッフと同様の運営を担う学生チームとは別に、世界の学生たちと議論し、自分たちの意見を発表する学生チームを編成することになる。本学の学生が中心となった日本の学生チームが、各国の学生チームと活発な議論を展開し、世界に向けて意見を発表してくれることを大いに期待している。

(京田辺校地学生支援課)

国連グローバル コンパクト・PRMEの アジア会議にて2位入賞

2012年12月8日～9日、慶應義塾大学にて行われた国連グローバルコンパクト・PRME(責任あるマネジメント教育原則)の第3回アジア会議の一環として、CSR(企業の社会的責任)や社会イノベーションに関する国際的ケースコンペティションが行われた。本学グローバルMBAの学生チームも参加し、全参加7チーム中、見事2位を獲得した。本学学生チームは、1年次生6人。多国籍メンバーで、出身地はアメリカ、カナダ、中国、インド、フィリピンとグローバルMBA学生のダイバーシティ(多様性)をそのまま反映している。学生が発表したケースは、「CSRと企業理念の統合について」・「キャノンとニコンの事例から」であり、詳細な企業分析と比較が評価された。ペルー出身のグスタボ・タナカビジネス研究科准教授が指導にあたった。なお、同志社大学は国連グローバルコンパクトに、また、同

志社ビジネススクールは、国連グローバルコンパクト・PRMEに加盟している。

コンペ前日

の8日には、グローバルMBAの教育・研究等について近藤まり子グローバルMBA

長が講演し、革新的なプログラム内容であると多くの称賛を得た。また、その流れを受けて、11日には、国連のPRMEのヘッドであるジョナス・ハートル氏が急遽、同志社ビジネススクールを訪問。グローバルMBAの教員・学生に対して、リオ+20の成果、サステナブルなビジネス、PRMEの活動等についての講演を行った。

(ビジネス研究科)

ホームカミングデー 2012開催

2012年11月11日、今出川キャンパスにおいて第13回ホームカミングデーを開催した。

昨年同様、在学生と卒業生による実行委員会を設置し、「ホームカミングデー」を卒業生と在学生がつながる機会にした」と知恵を絞り、企画から当日の運営まで行った。

